



### <来週の資金需給予想とイベント予定>

(単位: 億円)

日付	資金需給予想			主な要因	オペ期日	オペスタート	イベント
	銀行券要因	財政等要因	資金過不足				
7/26 (月)	+ 1,800	+ 9,200	+ 11,000	国庫短期証券 発行償還 (3M・6M)	国債補充供給 + 200	国債買入 + 13,900 社債等買入 + 800	米: 新築住宅販売件数 (6月)
7/27 (火)	トン	+ 5,000	+ 5,000		新型コロナ企業支援 ▲118,200		日: 黒田日銀総裁、講演 (日本記者クラブ) 日: 企業向けサービス価格指数 (6月) 米: 連邦公開市場委員会 (28日まで) 米: 消費者信頼感指数 (7月)
7/28 (水)	トン	▲11,000	▲11,000	国債発行 (40年)			日: 金融政策決定会合における主な意見 (7月15、16日分) 米: 連邦公開市場委員会の声明発表、 議長記者会見
7/29 (木)	トン	+ 4,000	+ 4,000				米: 新規失業保険申請件数 (24日終了週) 米: GDP (2Q) 欧: 景況感指数 (7月)
7/30 (金)	+ 1,000	+ 10,000	+ 11,000				日: 完全失業率 (6月) 米: ミシガン大学消費者マインド指数 (7月) 欧: GDP (2Q) 欧: CPI (7月)

### <インターバンク>

日銀当座預金残高は、先週末対比4,400億円増加の531兆7,100億円から始まった。その後は国債発行を主因に同残高は減少し、531兆5,200億円で越えた。

無担保コールON物は積み期序盤ということもあり、動意に乏しい展開となった。同加重平均金利は△0.035%で推移し、5日積みとなる21日は△0.038%となった。

ターム物は1~2Wのショートタームを中心に△0.035%~△0.015%の出が散見された。

来週の主な予定は、国内では27日に6月の企業向けサービス価格指数の発表や、28日に金融政策決定会合における主な意見の公表 (7月15、16日分) があり、海外では26日に6月の米新築住宅販売件数の発表や、27~28日に米連邦公開市場委員会の開催がある。

### [無担保コールレート]

	予想レンジ (%)
O/N	△0.070 ~ 0.001
1M	△0.050 ~ 0.020
2M	△0.010 ~ 0.050
3M	0.000 ~ 0.100
6M	0.000 ~ 0.130

### <レボ>

足許GC取引は週初△0.10%近辺の出合いから始まり、連休を跨ぐ20日の取引でも、レートは△0.10%近辺で推移した。その後、短期3M・6Mの発行が重なった21日の取引では、△0.09%~△0.085%の水準まで上昇し越えた。SC取引では2年409~426回債、5年136~148回債、10年333~363回債、20年163~177回債、30年69~71回債、40年9~14回債などに引合いが多く見られた。

### [オープン市場]

	予想レンジ (%)
現先 (on/1w)	△0.050 ~ 0.000
CP 3M	△0.080 ~ 0.000

### <CP>

今週の入札発行総額は約7,800億円で、週間償還額 (約3,400億円) を上回った。連休により営業日数が少なかったが、鉄鋼業や食品品業等の大型案件が実施され、マーケットは活況となった。発行残高は先週末の24兆1,796億円から、20日時点で24兆4,061億円に増加した。発行レートは、投資家の旺盛な運用ニーズに変わりなく、希少銘柄等においては強いマイナスレートでの出合いも見られた。

来週の週間償還額は、月末日の大量償還 (約7,500億円) を含み、約1兆円程度となっている。発行市場は、月末日の大量発行が見込まれるため、発行増が予想される。発行レートは、投資家の運用ニーズが強く、マイナスから0%近辺の出合いが中心と思われるが、日銀オペ等の対象銘柄や希少銘柄等では、今週同様強いマイナスレートでの出合いを予想する。27日に、CP等買入れオペが5,000億円で実施される予定となっている。

### <TDB>

7月19日の1Y1009回債(2022年7月20日償還)の入札は、最高落札利回り△0.1178% (前回債△0.1091%)、平均落札利回り△0.1178% (△0.1161%)、7月21日の3M1011回債(10月25日償還)の入札は、最高落札利回り△0.1042% (前回債△0.1062%)、平均落札利回り△0.1098% (△0.1070%) となった。来週は30日に3Mの入札がある。